

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策 【主体的・対話的で深い学び】
算数	知識及び技能	少ない物を数えたり、数字で書き表したりすることはできる児童が多い。しかし数が多くなるとまとまりで考えることができず、数え間違えてしまうことがある。また数の分解や合成ができず、位を意識して正しく数字で書き表すことができない。繰り上がりの無い足し算や引き算は、比較的スムーズにできる。繰り上がりや繰り下がりのある計算は、具体物を使用しないとできない児童もいて個人差が大きく定着も難しい。	たまごのパックで10の補数を考えるようにするなど、児童の生活に根ざした具体物で数を捉え、数の合成や分解をすることができるようにする。また10円や100円など、生活の中で使用するお金を用いて数のまとまりをつくり、位を意識させて大きい数も正しく数えることができるようにする。繰り上がり繰り下がりの計算については、そろばん等の具体物を操作しながら計算の仕組みを理解できるようにする。反復学習を多く取り入れ、定着率も高める。
	思考力、判断力、表現力等	問題の意味が正しく理解できず、何を答えてよいか分からない児童が多い。答えを導くための計算方法を選択することができず、正しい式が立てられないことも多い。また思考しなければならぬ場面になると、できないことへの苛立ちを感じてしまうことがある。自信がもてず難しい問題になると、考えることを早い段階で諦めてしまうこともある。さらに語彙が少なく、自分の考えを相手に言葉で伝えることが苦手である。	児童が興味をもてるものや、児童の生活に根ざした問題を設定し思考に対する意欲を高める。パネルシアターでカードをはりながら問題の場面を捉えさせる。絵の多いプリントを提示するなど問題の場面を具体的に捉えられるようにする。さらに個人の力を分析し、実態に合った問題を段階的に考えるようにすることで、自信をもって取り組むことができるようにする。その際に式を立てた理由を尋ね答えさせるなど、自分の考えを言葉で伝える機会を増やす。
	学びに向かう力、人間性	時刻が読めなかった児童が、読めるようになってきたことを大変喜ぶなど、できるようになった喜びが大きい。生活の中でなるべく速く、正しく数える方法を考えようとするなど、数学的な考えをよりよい生活のために使おうとする場面は少ない。計算の練習でやり方が分かると意欲的に取り組むなど、自信がもてると学びに向かう力が高まる。	より速い目的地への移動の仕方やより近い目的地へのルートを生活や他の学習の場面で意識させるようにして、数学的な考えを自ら使おうとする気持ちをもたせ、学ぶ力を伸ばす。段階的な個別指導を繰り返し行い自信をもたせると共に、児童が意欲的に取り組める意学習過程や教材の工夫を行う。